藤沢宿活性化に関する提言

「藤沢宿ビジョン」
６つの提言

令和４年３月３０日

藤沢地区郷土づくり推進会議

藤沢宿活性化に関する提言

「藤沢宿ビジョン」６つの提言

＜提言にあたって＞　Ｐ１
これまでの提出「提言」の経緯
提出「提言」の進捗状況
今般の「提言」提出の目的

＜藤沢宿活性化課題で取り組んできたこと＞　Ｐ３
①トランスボックスラッピング…歩いて学べる「まちなか博物館」づくり
②「藤沢宿らしさ」の車歩道整備…路側帯カラー化による整備

＜“歩いて見よう　藤沢宿”　//　素晴らしい藤沢宿づくりの実現＞　Ｐ４
「藤沢宿ビジョン」6 つの柱

提言項目
提言１「デザインマンホール蓋」設置　Ｐ４

提言２「藤沢橋自動車排出ガス測定局」周辺の敷地を活用した
散策者誘導策の検討　Ｐ５

提言３「歩道景観」への取り組み　Ｐ６

提言４「藤沢宿案内看板」の設置　Ｐ７

提言５「旧桔梗屋」建物の利活用検討　Ｐ７

提言６「藤沢宿を知ろう、守ろう、伝えよう」提起　Ｐ９

＜終わりに＞　Ｐ１０

＜提言にあたって＞

（これまでの提出「提言」の経緯）

私達の「藤沢地区」は東海道５３次６番目の宿場であり、明治１１年（１８７８年）『藤澤町役場』から始まった市の発祥地であり、米穀肥料商等の物流地区でもありました。近年では「歴史と文化が息づく、湘南藤沢の都心部拠点」として位置付けられ、小・中・高校のある文教地区、市民病院のある医療地区としての特性を持っています。

「藤沢地区郷土づくり推進会議」の前身である「藤沢地区市民会議（藤沢地区くらしまちづくり会議）」、「藤沢地区経営会議」、現会議体である「藤沢地区郷土づくり推進会議」では、こうした地区特性を生かした安心安全で誇りを持って暮らせる「“まち”づくり」を目指して以下の様な「政策提言」を提出してきました。

①平成１２年度（２０００年度）「旧労基署跡地を活用した施設」（集会施設・トイレ・休憩所・観光案内を）
②平成１６年度（２００４年度）「藤沢本町駅と周辺整備
―安全で安心して暮らせる“まち”に―」
③平成１８年度（２００６年度）「藤沢本町駅から市民病院の間にトイレを用意しよう
―トイレ・歩行者通路・休憩設備―」
④平成２４年度（２０１２年度）「生涯学習の地域拠点としての“藤沢公民館のあり方”」
⑤平成２７年度（２０１５年度）「地域の魅力、藤沢っ子のために“西富憩いの森”の充実」
⑥平成２８年度（２０１６年度）「藤沢宿を形に残す“藤沢宿の見える化”の取り組み」
⑦令和　元年度（２０１９年度）「藤沢宿活性化と行政施設のあり方」

（提出「提言」の進捗状況）

提出した「提言」は市のご支援によって以下の様な進捗となっています。

① の提言については平成２８年（２０１６年）４月に「ふじさわ宿交流館」がオープンしました。
② の提言については、伊勢山緑地法面工事終了に続いて車道の拡幅、バイパス下の歩行者トンネルが平成３０年（２０１８年）７月に完成し、これからは車歩道整備と駐輪場対策へと事業化が続き、新年度には自転車駐輪場新設、伊勢山に通じる通路の設置事業が進められます。また「藤沢本町駅」関係では県・市・鉄道事業者で構成された「協議会」が設置され、駅周辺の取り組みに進んでいくことになります。
③ の提言については公共機関のトイレ利用、歩行者通路整備、市民病院前周辺の歩行者歩道や信号設置等整備をして頂きました。
④ の提言については藤沢公民館、労働会館等の複合施設（Ｆプレイス）として竣工し、

平成３１年(２０１９年)４月に供用開始となり、歴史を刻んできた「旧藤沢公民館」での事業は終了しました。

⑤ の提言については階段や設備補強が進められ、平成２９年度(２０１７年度)からの整備が終了しました。

⑥．⑦の提言については国道４６７号歩道や神社仏閣に通じる参道整備、永勝寺に通じる道路、白旗横町に通じる道路、北仲通り、交流館に通じる道路、中横須賀公園整備、「トランスボックス」浮世絵ラッピングの貼り換えが完了し、現在は「南消防署本町出張所」新築に向けて「旧公民館」の解体・整備工事が完了しました。

(今般の「提言書」提出の目的)

「藤沢地区郷土づくり推進会議」は地域の３０課題を掲げ取り組みを進め、平成２９年度（２０１７年度）の課題統合による事業整理とその後の公園整備等の事業予算の付け替えなどにより、現在は「藤沢宿活性化事業」を重点事業とし、休止事業を含め２２事業を対象に活動しております。

藤沢市の顔は何といっても平安・鎌倉時代から江戸時代、明治時代、大正時代、昭和時代とこの地の歴史が当市の礎を形成してきた地です。残念ながら街道沿いは当時を物語る歴史の姿が経済・社会環境変化等々によって消え失せ、一方新しい転入者が増えてくる中で、当時から代々住む人とのコミュニケーションづくりが課題となってきました。当時を偲ぶ蔵・古民家等はマンション化、戸建て住宅化、コイン駐車場化や空地化となり、また新しく転入された方々が増え、藤沢宿、官庁街、米穀・肥料商等の物流地区と辿ってきた“まち”の歴史は記憶から遠ざかりつつあります。

江戸時代の鎮守であった山王山には藤澤町立実科高等女学校が設立（大正１４年・１９２５年)、その後、県立藤沢高校となり、平成２２年（２０１０年）に県立大清水高校と統合（現県立藤沢清流高校）するまでは市の教育の発祥地でありましたが、藤沢清流高校として統合後の跡地は「セキュレアシティー翼」として集合、戸建て住宅地となりました。

そして平成３１年(２０１９年)４月１日に複合施設「Ｆプレイス」完成に伴い「旧藤沢公民館」閉鎖後の周辺は人通りも少なくなり空洞化現象も出てきているのではないかと感じているところです。

面影が無くなりつつある歴史ある旧藤沢宿や、その後の繁栄していた明治から昭和初期に「“まち並み”を形成してきた旧東海道の歴史を形に残したい…」という思いから「藤沢宿の歴史から価値ある伝統を引き継いだ建造物の残る“まち”」、「住んでいる人も、これから住む人も郷土愛に満ちた“まち”」を目指し、令和元年(２０１９年)提出の“「藤沢宿活性化」と「行政施設のあり方」”の補強版として今回「藤沢宿ビジョン６つの提言」をさせて頂く事と致しました。

藤沢は鎌倉時代から現在まで歴史的変遷があった“まち”であり、時代を築いてきたその歴史と暮らしを受け継いでいく事が大切です。残念ながら現況は明治以降の建物が僅かに残るのみとなり、藤沢地区を形成してきた特徴ある歴史文化を何とか次世代に伝え、つないでいきたいというのが地域の願いでもあります。

＜「藤沢宿活性化事業」課題で取り組んできたこと＞

江戸時代から歴史を刻んだ歴史的財産が経済合理性や世代交代等の環境変化によって失なわれて来ている現実、また「藤沢宿」といっても街道筋には「藤沢宿」を表わす標識の無い“まち並み”を、地域の取り組みとして平成２２年(２０１０年)「藤沢宿が分かる様にするにはどうしたら…」について検討し、「回遊案内板設置、スポット案内板の設置、まち並み保存、市民病院周りの整備」等の構想を掲げ、「公民館まつり」や「地区全体集会」等に参加された方々のアンケート等での意見をまとめ、皆さんと論議する中で以下の様な「藤沢宿」の課題に向けて取り組んできました。

① トランスボックスラッピング…歩いて学べる「まちなか博物館」づくり

イ. 平成２３年度(２０１１年度)遊行ロータリーから藤沢橋間のトランスボックス２２基に藤沢宿の浮世絵ラッピング、平成２４年度(２０１２年度)に柳通り・銀座通りトランスボックス３２基に懐かしい商店街や藤沢宿誘導の写真ラッピング、平成２５年度(２０１３年度)に藤沢橋～白旗間２２基に江戸時代や明治初期、昭和初期の藤沢宿写真ラッピング、藤沢駅北口２基、併せて市民病院元バス停、藤沢橋自動車排出ガス測定局建物前、「かながわ信金」本町支店横に案内掲示、平成２８年度(２０１６年度)にミナパーク前の通路にトランスボックス１０基ラッピングと計８８基のトランスボックスに写真ラッピングを完成させ、すべてキーワード「歩いて見よう　藤沢宿」で統一表示してきました。藤沢地区の懐かしい昔の思い出のある「“まち”姿」が学べる写真のラッピングトランスボックスは、他の地区で見られる落書きもなく「“まち”景観」に寄与しています。

令和３年(２０２１年)３月に浮世絵ラッピングトランスボックスは公民館や関係課のご支援によって貼り換え、同時に二次元コードを貼り付けスマホで読み取ると大清水中学生による浮世絵の解説が聞けるシステムになりました。

ロ. ラッピングの完成に合わせて「トランスボックスラッピング解説」マップを発行し、その後トランスマップ統合版として、地域内の見どころや旧街道沿いで営む商店を紹介した「歩いて見よう　藤沢宿」冊子を発行しました。

② 「藤沢宿らしさ」の車歩道整備…路側帯カラー化による整備

市所管課のご配慮、ご支援によって永勝寺に通じる道路、白旗横町へ通じる道路、北仲通り、交流館へ通じる道路は遮熱仕様、路側帯カラー化となり、「御殿橋」修復保全、

神社仏閣に通じる通路には石畳風仕様にして頂きました。また県の支援よって藤沢橋～ＪＡ藤沢支店まで両側歩道は石畳風仕様で完成して頂きました。

＜“歩いて見よう　藤沢宿”　//　素晴らしい藤沢宿づくりの実現＞
「藤沢宿ビジョン」６つの柱」

歴史・文化・景観資源を活用した「藤沢宿」の取り組み（街道際の景観確保、新たな情報発信源の構築、地域力の構築など）を通して、住む人は歴史を培ってきた地区に誇りを持ち、訪ずれた散策者は宿歩きに満足しリピーターとなって貰える様な「住んで良し、訪れて良し藤沢宿」をキーワードとした「藤沢宿らしさ」が溢れる“我がまち旧藤沢宿”の完成を目指します。

（「藤沢宿ビジョン」６つの柱）
① 藤沢宿歴史文化資源の保全と適切な活用
② 地域住民の郷土愛の醸成
③ 後世に繋ぐ藤沢宿の伝承・継承
④ 藤沢宿エリアの可視化と周遊性の向上
⑤ ＸＲ（ＡＲ・ＶＲ・ＭＲ）など先端技術を活用した藤沢宿のＰＲ
⑥ 藤沢宿を活用した賑わいの創出
＊ＸＲとは…クロスリアリティーの略で、ＡＲ（拡張現実）、ＶＲ（仮想現実）、ＭＲ（複合現実）といった先進技術の総称

提言１「デザインマンホール蓋」の設置

「旧藤沢宿」である江戸見附～京見附間のマンホール蓋を「旧藤沢宿」を醸し出す「デザインマンホール蓋」仕様への変更を提案します。「旧藤沢宿」街道歩道の要所要所に、「デザインマンホール蓋」を順次設置して頂き、藤沢宿エリアを可視化します。

昨今スマホ等での「マンホール蓋」収集が人気であり、市観光協会や鉄道事業者、旅行会社、宿場間交流等々に働き掛け、広域的事業として進める「ツール」としての活用も考えられます。

またデザインは浮世絵等からの利用方法もありますが、出来れば藤沢宿に関する施設や人物等々の「藤沢宿ものがたり」としたストーリーを持った作画が話題になると思います。そして「マンホールカード」発行と特徴ある取り組みに発展させていければと思います。

さらに「提言３」の街道に設置する案内看板等にタブ、二次元コードを付けスマホ等から「デザインマンホール蓋」の図柄解説や場所等を紹介する仕組みなど連動した取り組みへの発展性もあると考えます。

（マンホールデザインイメージ）

デザイン例

（藤沢市や他自治体で取り組まれている「デザインマンホール蓋」事例）

提言２「藤沢橋自動車排気ガス測定局」周辺の敷地を利用した散策者誘導策の検討

「藤沢橋自動車排気ガス測定局」があるこの場所は、ＪＲ藤沢駅と小田急藤沢本町駅の中間に位置し、江戸時代には大鋸橋を中心に栄えた江の島一の鳥居があった旧藤沢宿の起点であり、江の島詣、大山詣をはじめ多くの旅人で賑わった場所でした。

この施設は平成１０年（１９９８年）頃から平成１４年（２００２年）頃まで稼働し、その後休止状態のままである「大気浄化システム」が設置されており、施設内の植栽は換気した空気を排出する排出機能として現在でもシステムの一部として現存していると聞いております。

現在設置されている「江の島道標」や「藤沢宿案内看板」と連動した散策者誘導策の一つとして、事業の将来性も踏まえ可能な範囲で敷地内有効活用の検討を提言します。具体的取り組み一つとして簡易ベンチの設置などが考えられますが、私達もアイデアの創出を進めていきたいと思います。

この場所を有効活用する事で将来的展望としてＸＲ（ＡＲ，ＶＲ，ＭＲ）等の先端技術の活用により、江の島一の鳥居はじめ藤沢宿を感じられる仕組みやトリックアート等インスタ映えするスポットとして「歩いて見よう藤沢宿」の発信地点とする研究も進めたいと考えています。

提言３「歩道景観」への取り組み

「旧藤沢宿」通りには宿場街道である「旧東海道」を表わす標識等もありません。街道の街路樹であった木が枯れてしまい「街路樹スポット」のみが残っている個所もあります。

行政のご支援によって歩道は宿場をイメージした石畳み風になりました。完成した「旧藤沢宿」歩道を活かすためにも「街路樹スポット」を転用するなどして、ノスタルジーを感じさせる「旧藤沢宿」を表わす石柱や表示板を設置し、藤沢宿エリアの景観形成に繋げることを提言します。かって旅籠町内会では「ものがたりのある“まち”」看板を設置してきましたが、この様な看板を設置するのも一案です。

本町白旗商店街振興組合では「湘南山の手通り　街並み協定書」（平成元年・１９８９年５月２９日制定）を市第一号商店協定街として「自主街並み規制」が発効され、会員は建物維持、建設時の協定順守、歩道整備等々独自の「まちづくり景観」に励んできました。しかし年月の経過と共に現代風の「まち並み」に変わりつつあります。「湘南山の手通り」という道路への名称付けも当時は話題だったことでしょう。そうしたことから街道看板等には「藤沢宿通り」と記載するのも一案かも知れません。またタブや二次元コードを活用した情報発信など二次的取り組みにも繋がると考えています。

「街道柱」イメージ

提言４「藤沢宿回遊案内看板の設置」

藤沢宿エリアは、ＪＲ藤沢駅や小田急藤沢本町駅から徒歩圏内で散策を楽しめる場所です。来訪者にとって小田急藤沢本町駅が、藤沢宿の神社仏閣等へ向かうスタート地点となる場合も多々見受けられます。改札付近で藤沢宿巡りのガイドによる説明風景を見掛ける機会も多く、藤沢駅と同じ様に小田急藤沢本町駅又は改札を出たら目に付きやすい場所に藤沢宿散策案内看板が必要だと考えます。

そして散策する人のためには、周遊ポイントを捉えた寺社の歴史や特徴を記した説明の看板も必要です。これらを設置し藤沢宿の案内を充実させる事を提言します。

周遊ポイントの看板にはタブや二次元コードを活用し神社仏閣の宮司や住職の語るそこでしか聞けない「とっておきの話」など特別感のある仕組みづくりも一案だと思います。

前述の取り組みに合わせ街道際は数少ない商店数ですが、その店の歴史や売り物等紹介する古い写真をパネルに入れて飾る事により、お客さんとの会話の「ツール」として活用したり、一部のお店で飾られている創業当時の写真を宿場街道沿いの事務所、商店で掲示する事でノスタルジーを感じ見て楽しめる街道づくりに向けて商店会と協力しながら進めていきたいと思います。

（藤沢本町駅への設置）

（店先へ写真展示）

（仏閣説明看板）

提言５「旧桔梗屋」建物の利活用策の検討

「旧桔梗屋」は江戸末期の文庫蔵、明治期の店蔵として現存する当地の唯一の建物で、裏庭は手入れされた植栽が広がり当時の店蔵の特徴をもたらしていました。

池波正太郎の小説に出て来る旅籠桔梗屋「お園」から始まり、令和２年(２０２０年)までの「旧桔梗屋」の歴史や銘茶、紙類販売から始まり後に洋紙問屋として経営をなしてきた藤沢想いの７代続いた施設は「藤沢宿」まち並みを語る唯一の建物となりました。

今後の利活用については藤沢宿の歴史や商家の内部を直に学べる「藤沢宿語り館」の機能を備えた施設として具現化して頂く事を提言します。この程７０年の歴史を持った佐々木材木店が事業終了になりました。元々は農家で味噌醸造を営んでいた事で当時使用していた脱穀機や大八車、大福帳等々が残されています。こうした貴重な歴史資材を文庫蔵に展示したり、懐かしい宿風景写真を展示したりしたいものです。

「旧桔梗屋」は店蔵の裏には社長、ご子息夫婦の住む２棟の建物、自慢の中庭があり商家の姿が学べる唯一の歴史的文化資源でした。２棟の建物解体、自慢の中庭であった植木等一部伐採されましたが、店蔵を寄付し敷地売却した経営者は残念がっていました。是非当時の商家特有の中庭に復元して頂き、和室から中庭を見ながらのお茶会や琴会が楽しめる施設としても考えて頂ければと思います。

「旧桔梗屋」供用開始までの今が「まち並み形成」を含め藤沢宿活性化の方法を総合的に考える最後のチャンスなのではないかと思います。県管理の藤沢宿街道際の残り少なくなってきた歴史ある店蔵の耐用年数から、建物維持について判断時期の到来が迫って来ている状況や家屋の解体等によって「まち並み」が破壊されて来ている現状で、「藤沢宿らしい景観づくり」が喫緊の課題となっています。

「藤沢地区郷土づくり推進会議」が協力した日本大学・住まいと環境研究室・小島ゼミによるアンケート調査結果でも「藤沢宿」や「桔梗屋」の歴史を実感でき、誰でもが気軽に利用し易い施設として、研究発表の場として、学びの施設として利用したい等の意見も出ています。

是非、旧藤沢宿活性化のために、「旧桔梗屋」供用開始予定の令和９年（２０２７年）１月までに「旧桔梗屋」をランドマークとした「旧藤沢宿」活性化の方向性（ビジョン）を策定して頂きたいと思います。

提言６「藤沢宿を知ろう、守ろう、伝えよう」提起

「藤沢地区郷土づくり推進会議」が協力して実施した日本大学生による「古民家活用と地域活性化」住民意識調査の結果によると「藤沢宿活性化や歴史を押し出した取り組みや景観の一帯感を持つこと等が活性化に繋がる。」と言う意見が大多数でありましたが、一方で「静かな今のまちが良い、活性化による弊害が出て来る。」と言う意見も見受けられました。また高齢者層からは「歴史伝承取り組みへの期待」、若い層の人たちからは「古民家リノベーションにより気軽に利用出来る施設として飲食店、小売店、憩いの場」と言う意見や、「新しい住民が増え、親しみが無くなり疎外感がある」「皆で楽しめる“まち”にして欲しい」など年代や居住年数によって特徴ある回答が寄せられています。この様な住民の意見をはじめ地域全体での取り組み共有を如何に図っていくかが課題である事も調査結果から読み取れます。

そして「市政運営の総合指針２０２４」においても、「少子高齢化や地域コミュニティーの希薄化等により、多くの有形・無形の文化財の歴史や文化・景観の継承が難しくなっている中で、藤沢市の財産として次代にしっかりと保全・継承するとともに、新たな活用により地域の活性化につなげる必要がある」ことが長期課題として提起しています。

社会現象、経済現象によって誇るべき当地の歴史が消え失せつつあるなか、先ずは地域住民の郷土愛の再認識と醸成が必要であることから、「旧東海道」界隈の自治会、町内会で論議する機会提供を、学芸員さんなど藤沢宿の知識を有する方のご協力を頂き実施する事を提言します。

地域をあげて「藤沢宿を知り、守り、伝える」、「住んでよし、訪れてよし、藤沢宿」を住民一人一人が共有出来る様にしていきたいと思います。地元中学生による「宿絵画展」や夏休み「研究報告会」も藤沢宿を知る良い機会になりました。地元で生まれ、学び、巣立つ層への勉強会等々、地元の宝を知る機会になります。「藤沢地区郷土づくり推進会議」としても協力していきたいと考えています。

以上６つの提言については、「旧桔梗屋」供用開始予定の令和９年（２０２７年）１月までに実施して頂く事を要望致します。

＜終わりに＞

鎌倉時代から江戸時代、そして明治時代に町役場が発足した市の発祥地として、藤沢市の礎を築いてきた藤沢地区の歴史を伝承していく提起をしたい。地域住民の唯一の拠り所の施設として、また多くの市民が利用してきた生涯学習の場として貢献してきた「旧藤沢公民館」の歴史を大切に、時代が変わろうとも藤沢市の原点を残していく事が大切と思います。市の財政事情等々もあると思いますが、今ある藤沢の原点を残す事は、行政や市議会の課題かも知れません。

地域と共に歩んできた「旧公民館」の歩みが終わりました。しかし「旧公民館」の歴史は将来に亘って忘れない様に、地域や市の発祥施設であった証として残して頂きたいと思います。

私達は「消防出張所」竣工後の「旧藤沢公民館」の跡地利用のあり方について、今後も各種取り組みとして並行して考えていきます。僅かに残る店蔵を守り、「旧桔梗屋の供用開始」「新消防出張所」「旧公民館跡地の再活用」など藤沢宿エリアの新たな資源を活用し、如何にして魅力溢れる藤沢宿にしていくのか将来展望を含め研究を続けて参ります。